【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立田野小学校
1　前年度 評価結果の概要	・校内研の取組の成果と課題 ・家庭学習の課題 ・キャリア教育（自己肯定感・意欲）の課題
2　学校教育目標	「みんなで創ろう　楽しい　田野小」～やる気！こん気！チーム田野～
3　本年度の重点目標	①職能成長を図る・・・・・・・・・・・危機管理の徹底、研修の充実を図り、新しい教育課程に対応できる教職員の資質向上をめざす ②子どもに学力をつける・・・・・・基礎的・基本的な学習・生活習慣の定着を図り、思考力・表現力の向上をめざす ③子どもの心を豊かにする・・・・思いやりの心をもって、折り合いのつけられる子どもをめざす ④子どもの健やかな体をつくる・・・スポーツチャレンジや食育を通して、健康な体づくりをめざす

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師８０％以上	・教職員間でマイプランを共有し、「学び方7か条」に基づく学習規律の継続と徹底を図り定着させる。	A	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は８４％であり，数値目標を達成した。 ・学習状況調査等の分析による課題点を共通理解して，重点指導することで学力が向上した。	A	・学習状況調査の結果や分析を学校だより等で詳しくお知らせしてもらっており，先生方の熱意も感じられるし，保護者も学力向上に前向きになるであろう。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○唐津市学力向上アクションプランに基づく校内研究の推進	○授業における課題提示、学習活動、評価をアクションプランチェックシートにおいて2．5以上	・「ふりかえる」「つかむ」「見通す」段階において、図・式・言葉を使いながら自分の考えを表現する取組を行っていく。	A	・個人のアクションプランチェックシートの評価平均値は，３．１であり，数値目標を達成した。 ・「つかむ」「見通す」段階における学習の取組は，ずいぶんできるようになったが「ふりかえり」の段階ができないところもあるので、今後の課題である。	A	・取組状況としては学力向上のために様々な工夫をされるなど努力されていることがよくわかり適切である。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○相手の立場に立って、考えを認めたり、折り合いをつけたりできる児童80％以上	・年間7回の心の集会（人権集会）を実施し、児童の人権感覚を高める。 ・道徳の授業において、「考え、議論する」授業形態を通して、道徳的実践力を育成する。	A	・「心の集会を通して，自分はやさしい心が育った」と肯定的に回答した児童は８４％。 ・道徳科の授業で，「児童の自他を大切にする心や思いやりの気持ちを育むことができた」と答えた職員は８８％で，研修会の効果が表れている。	A	・家庭の教育力が希薄化している昨今，「心の集会」は子供たちにとっていい取組だと感じる。同じテーマを全校で共有するこの取り組みは今後も続けてほしい。	道徳教育推進教師 心の教育担当者 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケートやQ－Uテストで気になる児童の早期発見に努め「学級生活満足群」の割合を80％以上	・生活アンケート、Q－Uテストの実施後、研修会を通して分析を行ない、学級経営に生かす。 ・学級経営案の中に、「いじめ防止」の視点を取り入れ、児童を観察し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	A	・Ｑ－Ｕテストを２回実施。その結果を活用し，１回目と比較する研修会を行い，３学期の学級経営に生かすことができた。 ・年間３回のいじめアンケート調査を実施し，確認と指導を行っている。昨年度に比べると「いじめを受けている」という回答が減っており，継続的な「心の集会」などの効果が出ている。	A	・保護者、児童のアンケート結果から，各項目とも概ね学校の取組は適切で、いじめの減少は喜ばしいことである。	（主）生徒指導主事 （副）各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高めるための教育活動	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80％以上	・児童自身の活動に目標を持たせ、取り組み、振り返り、改善しながら「自分らしい生き方」の育成を図る。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的に回答した児童は，８９％。「児童に自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を取り組んでいる」と答えた職員も８９％と意識が高い。今後は，保護者の意識を高めていくことが課題である。	B	・「唐津ジョブチャレTV（動画）」は、とても良い取組である。地域が積極的に学校に発信することを今後も応援していけるようにしたい。	（主）教務主任 （副）各教科主任
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90％以上	・健康観察で朝食調査をし、食べてきていない児童へ個別指導をする。また、食事の内容についても指導をする。	B	・毎日の健康観察で朝食指導を続けた結果，朝食を食べて来ない児童の数が減少した。 ・給食メニューの栄養について，給食委員会が工夫して毎日放送しているので，バランスのよい食事をとらなければいけないという児童の意識が大きく変わっている。	A	・毎日の健康管理は，主に家庭がやるべきであるが，学校でできることは計画的に行われており，すばらしいと感じた。	養護教諭
	○運動習慣の定着化及びスポーツチャレンジの実施	○朝の運動を奨励し、外遊びの習慣化を図る。スポーツチャレンジ達成率85％以上	・スポーツチャレンジの記録を毎回更新しようとする意欲を継続するために、記録を掲示したり学級だよりで広報したりする。	B	・スポーツチャレンジの内容で，８の字跳びに限定して取組を続けた結果，県でも上位にランクインすることができた。スポーツチャレンジ達成率は，全学年１００％である。	A	・今年度は，コロナの影響により外で体を動かすことが困難だったと思うが，学校側でいろいろと工夫をされていると感じた。	保体部主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議時間の設定や資料の事前配布等を確実に行う。また、3部会を機能させ、組織が業務に向かうような体制づくりを進める。	A	・会議の時間配分設定や資料の事前配布に加え，会議資料のペーパーレス化も実施することができ，業務の効率化の一助となった。 ・時間外勤務の平均時間は，中間評価時と変わらず約３０時間であるが，職員の意識は変わりつつある。	A	・先生方が病気にならないように管理職がしっかり見守ってほしい。	管理職
	○職場の環境整備	○明るい職員室づくりを目指し、美化や環境を整え「働きやすい職場である。」と答える職員90％以上	①デスクの整理整頓 ②今日のTODOリスト作成 ③自分のタイムマネジメントを考える	A	・「学校で先生と話したり，遊んだりする時間がある」と答えた児童は８１％。職員も時間を作って努力している。 ・「田野小は，明るい職員室づくりをめざし，働きやすい」と答えた職員は１００％。	A	・学校の環境整備は，児童の作品や児童の育てた花などできちんと整備されており，充実していると感じる。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○危機管理の徹底	○コロナ対策や保護者対応、個人情報漏洩などの意識の向上	○危機管理意識が高まった教師95％以上	・情報を共有し、3密を避ける取組の強化 ・管理職への報告、連絡、相談の徹底 ・持出記録簿の活用	B	・コロナ対策や保護者対応、個人情報漏洩などの意識を向上させるための研修や職員連絡会での話を随時取り組んだ結果，危機管理意識が高まったと答えた教師は100％。 ・持出記録簿への記入が疎かになっていたので，個人情報漏洩防止の意識を高め，徹底していく。	A	・教員の不祥事が世間では問題になっているが，先生方のストレスの大きさが課題ではないか。なぜ不祥事が起きるのか考えてほしい。	管理職
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員90％以上	・特別支援教育の研修会を年3回以上実施 ・外部講師を招聘した研修会を実施 ・ケース会議の開催、情報共有	B	・特別支援教育研修会を年3回実施したり，個別の指導部会において、支援を要する児童への支援の在り方について定期的に話し合ったりしたことで，特別支援に関する専門性が向上したと答えた職員は，89％。	A	・月に一度，児童クラブや児童館に先生方が輪番で出向いて，気になる児童の様子を聞き取りするなどよくしてもらっている。	特別支援コーディネーター
○開かれた学校づくり	○保護者・地域住民との連携	○いきいき学ぶからつっ子育成事業を活用して、地域の役に立った、ふるさとのよさを知った、感謝の気持ちを持ったという児童の割合95％以上	・保護者、地域住民との連携年間計画を作成し、全ての学年で計画的に連携した体験活動を行う。	B	・コロナ禍の中，保護者・地域との連携については「中止ありき」ではなく「実施ありき」の中で、工夫しながら取り組んだ。 ・家庭訪問や授業参観の中止もあり、保護者と担任との関係づくりが難しかった。	B	・今年度のコロナ禍の中での，開かれた学校づくりは困難を極めたと感じるが，できるだけのことは実施してもらったので感謝している。	指導教諭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

6総合評価・ 次年度への展望	・田野小の児童は，全体的に人前で自分の考えや意見を出すことを苦手としたり，恥ずかしがったりする傾向があので，今後，授業や体験活動，学校行事などを通して、公の場で堂々と話をする経験をたくさん積ませて自信をもたせたい。 ・今年度のアンケートの結果から、保護者の期待に応えられていない部分もあるので，学校と家庭・地域が「目標を共有」して子供たちを育てていくことが必要。そのためにも、今後もしっかりと話をする機会を設けて，共に田野小の子供たちのために頑張っていきたい。 ・児童・保護者・教師の意識の高まりを中間評価と比較して検証してみると、全体的にポイントが上がっている。評定が低かったところも3学期は上がっているので，少しずつではあるが努力していることがうかがえる。ただ，学力向上の項目は、児童が3.2から3.1と若干下がっているので、昨年同様家庭学習の取組を保護者への協力を呼び掛けて根気強く取り組んでいかなければいけないと考える。